

意味表示における *Have*-使役*

井上 和子

0. はじめに

動詞 *have* を用いた使役文には、下の(1a)のような補文に bare infinitive をとる場合と、(2a)のように過去分詞をとる場合がある。本稿は、(1a)、(2a) がそれぞれ(1b)、(2b)のように意味表示されることを主張するものである：

- (1) a. John had Bill wash the car.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN]_i, [_{Event} GO([_{Event} BILL WASH THE CAR], [_{Path} TO([_{Thing} JOHN]_i))]))]
- (2) a. John had the car washed.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN]_i, [_{Event} GO([_{Event} THE CAR BE WASHED], [_{Path} TO([_{Thing} JOHN]_i))]))]

すなわち、どちらも、function GO の最初の項に埋め込まれている Event (以後Eと略す)が異なるという点を除けば、同形(isomorphic)の構造である。日常的な言葉で言い換えるなら、例えば(1b)の構造は、[BILL WASH THE CAR] というEを John が自分の所に来る様にさせる (来てもらう様にする) ということを表している。すなわち、どちらも主語の NP は補文で表されている行為の受け手 (=Goal) である様にするという意を表している。ちなみに、ほかの使役動詞と比較してみると、たとえば、*cause* と *make* の Inoue(1989)による意味表示は、次の様である：

- (3) a. John caused Bill to work.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN], [_{Event} GO([_{Thing} BILL]_i, [_{Path} TO([_{Event} BILL_i WORK]))])]
- (4) a. John made Bill work.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN], [_{Event} BILL WORK])]
- (3a)が表しているのは、移動するのは Bill であり、Goal が [BILL WORK] という E であるということである。(4a)の場合は、function CAUSE の最初

の項は John であり、二番目の項は [BILL WORK] という E ということになる。

以下、§1 ではここでの意味表示の基になっている枠組について、簡単に概略する。§2 では、考察の対象となる *have*-使役が、*have* を用いた他の構文とどのような基準で区別できるのかを明らかにする。§3 では、*have*-使役が (1b), (2b) の様な意味構造をもつ論拠を提示する。とりわけ、主語の NP が、Theme である E の Goal であるかどうかという点に焦点が置かれる。

1. 意味表示の枠組について

Inoue(1975, 82)等において、言語の意味表示に関して次のような仮説を唱えてきた：(i) 言語の殆どすべての動詞は、場所にかかわる表現との関係で記述できる。(ii) 動詞の意味表示の基本を場所的關係とすると、言語の基本的構文は意味表示のレベルではきわめて少数のパターンに還元される。そして以下の様な三つのパターンが基本であると考ええる。

- (5) i. STATIVE: [BE([X], [Y])]
 ii. CHANGE OF STATE: [GO([X], [Y])]
 iii. CAUSATIVE: [CAUSE([Z], [E])]
 (where X=Theme, Y=Location or Goal, Z=Causer,
 E=Event)

BE, GO, CAUSE など大文字で表しているのは意味要素であり、X, Y, Z, E は変項で、X は Gruber(1965), Jackendoff(1973)の意味での‘Theme’, Y は‘Location’あるいは‘Goal’, Z は‘Causer’, E は‘Event’を表す。パターン (i) は状態動詞の構文、(ii) は状態変化動詞の構文、(iii) は使役動詞の構文、の意味表示の枠組となる。各パターンは、X, Y にどういう意味範疇の要素を取るかによって、具体的場所表現から抽象的な状態表現までさまざまな抽象度の表現を包含することになる。たとえば、(5 ii) のパターンは以下の様な多様な表現をカバーする：

- (6) a. The prize went to John.
 b. John received the prize.
 c. John became a doctor.
 d. John got wet in the shower.
 e. John came to like Mary.

etc.

また、Event に関しては、次の3タイプに下位区分される：

- (7) i. CHANGE OF STATE
- ii. ACTION
- iii. CAUSATION

なお、(5)(i)–(iii)に基づいた意味表示は、文の統語表示と Jackendoff (1983)等に見られる様な correspondence rules によって結びつけられると考える。

2. *Have*-使役と他の *Have*-構文

非常に興味深いことには、*have* を用いた構文は、上記(6)の三つのパターンのいずれにも当てはまるものをもつ様である。本節では、*have*-使役とそのほかの *have*-構文を識別する特徴について述べておきたい。

まず、(8)におけるような、*have*-使役と形態上類似している文の場合を見てみよう：

- (8) a. John has a cake baking.
- b. John has a car parked.
- c. John has a tooth missing.

(8)のような文が、(1a), (2a)の使役文とは意味的に異なるタイプに属することは、まず第一に、後者は‘what happened was ...’という EVENT のテストにかかるのに対し、前者はかからないという点から明らかである：

- (9) a. What happened was that John had Bill wash the car.
- b. What happened was that John had the car washed.
- (10) a. *What happened was that John had a cake baking.
- b. *What happened was that John had a car parked.
- c. *What happened was that John had a tooth missing.

(8)のような文は、EVENT タイプではなく、(5i)のタイプに属する状態表現であることは、さらに‘seem to’の後に起こりうることによって裏付けられる：

- (11) a. John seems to have a cake baking.
- b. John seems to have a car parked at the curb.
- c. John seems to have a tooth missing.

次に、(12)における *have*-構文との関係を検討してみよう：

- (12) a. John had his savings wiped out.

b. John had his car break down.

これらの文は, (12a)は‘have+object+past participle’, (12b)は‘have+object+inf.’という点で, 形態上は(1a), (2a)となんら変わるところがなく, しかも (9) における様に EVENT のテストにもかかりうる:

(13) a. What happened was that John had his savings wiped out.

b. What happened was that John had his car break down.

しかしながら, 主語の NP が Agent であるか否かという点に関しては, 両者は相違している。例えば, ‘what x did was ...’のテスト及び try to の後では, 対立は明瞭となる:

(14) a. *What John did was have his savings wiped out.

b. *What John did was have his car break down.

c. What John did was have Bill wash the car.

d. What John did was have the car washed.

(15) a. *John tried to have his savings wiped out.

b. *John tried to have his car break down.

c. John tried to have Bill wash the car.

d. John tried to have the car washed.

また, 逆に, (12)の文にのみ当てはまる特徴には, “adversative effect”を示す‘on NP’の句をとりうるという点が挙げられる:

(16) a. John had his savings wiped out *on him*.

b. John had his car break down *on him*.

(17) a. *John had Bill wash the car *on him*.

b. *John had the car washed *on him*.

さらに, (12)の文は‘what happened to x was that x ...’のテストにかかるが, *have*-使役はそうではない:

(18) a. What happened to John was that he had his savings wiped out.

b. What happened to John was that he had his car break down.

(19) a. *What happened to John was that he had Bill wash the car.

b. *What happened to John was that he had the car washed.

以上の様な相違から, (12)の文は意味的には *have*-使役とは別の, (5 ii) のタイプに属する文と考えられる。

3. Have-使役の意味構造

本節は、(1a), (2a)の *have*-使役の構文が、それぞれ(1b), (2b)の様な意味構造をもつとの主張を支持する論拠を提示する。議論の焦点は、主語の NP は Causer であるばかりでなく、補文の E の Goal であるという点に置かれる。この議論にはいる前に、*have*-使役の(1b), (2b)の構造が表している以外の特徴について、以下簡単に述べておきたい。

特徴の第一は、主語の NP には人間以外のものは来ないということである。この点、やはり使役動詞の *make* とは対照的である。主語の NP が人間を表している場合には、(20)が示す様に、*make* も *have* も共に起こりうる。しかしながら、主語の NP が人間を表していない場合には、*make* のみしか可能ではない：

- (20) a. The trainer made the lion enter the cage.
 b. The trainer had the lion enter the cage.
 (21) a. Beating it with a whip made the lion enter the cage.
 b. *Beating it with a whip had the lion enter the cage.

特徴の第二は、*have*-使役は *make* とは異なり、手段を表わす *by*-phrase、道具を表わす *with*-phrase 及び様態の副詞などを取り得ないということである。下の(22), (23)の a.文と b.文の容認度の違いがそれを示している。

- (22) a. The trainer made the lion enter the cage (by beating it) with a whip.
 b. *The trainer had the lion enter the cage (by beating it) with a whip.
 (23) a. John carefully made his student do a survey.
 b. *John carefully had his student do a survey.

このような特徴から、*have*-使役の場合、主語の NP は Actor としての Agent 性は弱いと言えよう。

さて、*have*-使役の主語が補文の E の Goal であるとする説を支持する論拠の第一は、次の(24), (25)の a., b. 間の対比にかかわる事実である：

- (24) a. *He had himself wash the car.
 b. He made himself wash the car.
 (25) a. He had himself washed.

b. *He made himself washed.

(24)の a.の文が不可なのは、(1b)のような意味構造を仮定すれば、次の様に説明できよう。すなわち、(1b)の構造の意味しているのは、「(ある行為)をしてもらう」ということであるから、自分が自分になんらかの行為をしてもらうというのは、極めて不自然である。それに対し、b.の文が可能なのは、(4b)の構造では、主語の NP は単に使役主であって補文の E の受け手であることは意味していないからである。(25)の場合には、a.の文が成り立つのは、今度は彼自身が洗う行為をするのではなく、(体を)洗う行為をされる側であるので、(2b)の構造と矛盾するものではない。それに対し、b.の文が不可なのは、function CAUSE の二番目の項である E は、一番目の項が引き起こしうるものでなければならないという意味的制約によるものである。²

次に、(26)の文の場合を見てみよう：

(26) a. The candidate made his power felt.

b. ?*The candidate had his power felt.

a.の文と b.の文の容認度の相違は、補文の feel の主体の相違から来ている。すなわち、a.の文では主体は人々である。これに対し、b.の文では主語の 'candidate' 自身である。従って、candidate はだれかほかの人に自分の力を感じさせてもらったということになるので、nonsense な文ということになる。このことは、*have*-使役の b.の文が、(2b)の様に主語の NP が補文の E の Goal である構造であることを示唆していると言えよう。

また、(27)の a., b.両文における補文の his の解釈を検討してみよう：

(27) a. John had Bill wash his dishes.

b. John made Bill wash his dishes.

統語的には、どちらも his は John でも Bill でも指しうるはずである。しかしながら、どちらの読みが primary であるかという点で両者は異なっている。すなわち、b.の場合には his=Bill が primary であるのに対し、a.の場合には his=John が primary である。このことは、*have*-使役が「～してもらう」の意味の(1b)のような構造であることを示唆していると思われる。

次の論拠にはいる前に、まず、よく知られている 'for \$5' のような句と 'buy', 'sell' のような動詞との関係に注目してみたい：

(28) a. John bought the book from Bill for \$5.

b. John $\xleftarrow{\text{Book}}$ Bill

John $\xrightarrow{\$5}$ Bill

(29) a. Bill sold the book to John *for* \$5.

b. Bill $\xrightarrow{\text{Book}}$ John

Bill $\xleftarrow{\$5}$ John

(28a), (29a)はどちらも同じEを表わすが、どのような意味役割の NP を主語として呈示するかという点で異なっている。‘buy’の場合には、(28b)で図示した様に、主語の NP が目的語である Theme (この場合は Book) の Goal であり、\$5 は反対に主語の NP から Book の Source である Bill へと移動する。‘sell’の場合には、(29b)で図示した様に、主語の NP が目的語の Theme の Source であり、反対に\$5 は、主語の NP に *to-phrase* の位置にある John から移動する。すなわち、物と金の移動は正反対になされることになる。このような二つの対立する移動関係は、lend-borrow, give-obtain などの様な反対関係を表わす動詞の pair にもあてはまる。

では、‘for \$5’の phrase を *have*-使役に付加してみるとどういうことになるであろうか。もし、(1b), (2b)の様に、主語の NP が Theme の Goal であるなら、‘buy’と同じように、\$5 は主語の NP から出ていくはずである。下の(30), (31)を注目されたい：

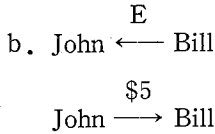
(30) a. John had the car washed *for* \$5.

(⇒ John paid \$5)

b. John $\xleftarrow{\text{E}}$

John $\xrightarrow{\$5}$

(31) a. John had Bill wash the car *for* \$5.



果たして、どちらの *have*-使役の場合も、\$5 は John から出たことを意味している。従って、(28)の場合と同様、Theme(ここでは物ではなく E であるが)の移動はその逆の方向、すなわち John の方向になされたと言えるであろう。

なお、使役動詞 *make* と‘for \$5’との関係は以下の様になる：

(32) John made Bill wash the car for \$5.

(⇒ John or somebody else paid \$5)

(32)は John が\$5 を支払ったという解釈も可能であるから、一見上記の分析の反例にみえる。しかしながら、(4b)のような構造を仮定しても(32)の解釈は説明がつく。(4b)の構造では、Theme の移動はないので、(32)の文が使われる状況によって両方の解釈 (John は Bill に車を洗わせそれに対し\$5 支払ったとも、John は誰かの代理人として Bill が\$5 受け取るかわりに車を洗わせた) が生まれてくると考えられる。

次の論拠は、(2a)のような *have*-使役の補文の特徴に関するものである。それは、補文に Theme の移動がある動詞が埋め込まれている場合、主語の NP が Theme の Source である動詞の方が、Goal である動詞より好まれる傾向があるということである³。下の(33)の a., b.の容認度の差に注目したい：

(33) a. Mary had a precious diamond sold.

b. ?*Mary had a precious diamond bought.

もちろん、この容認度の差も絶対的なものではなく、b.の文も‘for someone’や‘from someone’の様な句を付加すれば、容認度は改善する。しかしながら、単独では上記の傾向は存在する所であり、それはほかの動詞においても認められる。下の(34)の *donate* は *sell* と同様主語の NP が Theme の Source である動詞であり、(35)、(36)の *obtain*, *inherit* は *buy* と同様主語の NP が Goal である動詞である：

(34) John had a lot of money donated.

(35) ?*John had a lot of money obtained.

(36) ?*John had a lot of money inherited.

ちょうど(28), (29)において‘for \$5’が目的語の Theme とは反対の方向に移動することを表わす様に, 補文に埋め込まれた移動を表わす動詞も母型文の *have* の移動とは反対の方向のものが好まれると仮定すれば, この傾向はうまく説明できる。言い換えれば, (33b), (35), (36)の容認度が低いことは, *have*-使役が(2b)の様に, 主語の NP が Goal である様な意味構造をもつことを示唆していると言えよう。

さらにこの主張を裏付けるのは, *lease*, *rent* の様に両方向の移動を表わす動詞である。すなわち, この二つの動詞は(37)の a., b.の様に, 主語の NP が Source にも Goal にもなりうる:

(37) a. John rented (leased) the house to Mr. Smith.

b. John rented (leased) the house from Mr. Smith.

では, このような動詞が *have*-使役の補文に埋め込まれた場合は, どうであろうか。(38)の文を検討したい:

(38) John had the house *rented* (*leased*).

興味深いことには, (38)の *rent*(*lease*)は(37)の a.の読みだけを表わしている。

また, *rent*(*lease*)の b.の読みは, ‘from NP’を取らなくても, (39)における様な道具を表わす *with*-phrase でも示しうる⁴:

(39) John rented (leased) the house with his own money.

この *with*-phrase を伴った *rent*(*lease*)が *have*-使役の補文に埋め込まれた場合は, 「自分自身の金で(人に)貸す」というのは nonsense であるから, やはり非文となる:

(40) *John had the house rented (leased) with his own money.

次の論拠は, 今度は *have*-使役がどのような述語の後に起りやすいかということに関係している。Ikegami(1989)において, *have*-使役の構文は(41)のような *need* や *want* の後に起りやすいということが指摘されている:

(41) She really needs to have somebody ring her up.

これに対し, *make* はそのような述語の後では不可能ではないが, 容認度はやや低くなる:

(42) ? She really needs to make somebody ring her up.

この違いは, *have*-使役が(1b)のような「～してもらおう」という意味の構造

をもつことを反映していると考えられる。

4. 結び

本稿は、補文に bare infinitive 及び過去分詞をとる使役動詞 *have* の意味構造について考察してきた。そのどちらも、主語の NP が、補文が表わしている E の Goal である(43)の様な構造をもつと論じた。

(43) [CAUSE([Z], [GO([E], [TO([Z]])])])]

このような分析が妥当なものであるならば、次の二点が結論として引き出せると言えよう。

第一点は、*have*-使役が上記のような構造であるならば、他の *have* の構文、すなわち所有を表わす *have*、所有の移動を表わす *have* 又は *get*、受身的な意味の *have* などと関連づけて parallel な形で表示することが可能となるということである。それはまた心理的にも極めて妥当なものと言えるであろう。

第二点は、このような分析によるならば、何故 *make* の補文よりも *have* の補文に動詞の過去分詞形が生じやすいかという問いへの説明を提供することにもなるということである。

[注]

*本稿をまとめるにあたって、データのチェックに忍耐強くご協力いただいた Carol Rinnert 氏、Peter Goldsbury 氏に感謝の意を表したい。

- 1) ここで用いている Theme, Goal, Location 等は、意味構造の特定の位置を指す便宜的名称であって、GB 理論等で用いられているような統語的格ではない。
- 2) この制約により、たとえば、以下の様な文の非容認性が説明されることになる：
 - (i) *Strong wind caused an earthquake.
(Cf. The eruption of the volcano caused an earthquake.)
 - (ii) *John made Bill fall in love with Mary.
 - (iii) *Night duty brought it about that Bill caught a cold.
- 3) この点の指摘は、Ikegami(1989)に拠る。
- 4) rent(lease)と‘with his own money’との関係については、Gruber(1976)を参照。

REFERENCES

- Baron, Naomi S. (1972). The Evolution of English Periphrastic Causatives: Contributions to a General Theory of Linguistic Variation and Change. Doctoral Dissertation, Stanford University.
- Dieterich, Thomas G. (1975). Causative *Have*. *CLS* 11, 165-176.
- Gruber, J. S. (1965). Studies in Lexical Relations. Doctoral Dissertation, MIT. Reprinted as part of *Lexical Structures in Syntax and Semantics* (1976). North-Holland, Amsterdam.
- Ikegami, Yoshihiko. (1989). "HAVE+object+past participle" and "GET+object+past participle" in the SEU Corpus. In Udo Fries and Martin Heusser, eds.: *Meaning and Beyond: Ernst Leisi zum 70 Geburtstag*, Tübingen: Gunter Narr, 197-213.
- _____. (1990). 'HAVE/GET/MAKE/LET+Object+(to-)Infinitive' in the SEU Corpus. 「形式と意味の間：国広哲弥教授還暦退官記念論文集」, 181-203, くろしお出版.
- Inoue, Kazuko. (1975). Some Speculations on Locative, Possessive and Transitive Constructions. *Sophia Linguistica* 1, 41-60.
- _____. (1982). Syntax and Semantics of Stative Construction—An Approach Based on a Localistic Hypothesis of the Verb—. *Gengo Kenkyu* 81, 29-59.
- 井上和子. (1989). 意味表示における *Cause* と *Make*. *Conference Handbook* Nov. 1989, 40-45. English Linguistic Society of Japan.
- Jackendoff, Ray S. (1976). Toward an Explanatory Semantic Representation. *Linguistic Inquiry* 7, 89-150.
- _____. (1983). *Semantics and Cognition*. Cambridge, MA: MIT Press.
- _____. (1987). The Status of Thematic Relations in Linguistic Theory. *Linguistic Inquiry* 18, 369-412.
- _____. (1989). *Semantic Structures*. Cambridge, MA: MIT Press.

***Have*-causatives on Semantic Representation**

Kazuko INOUE

The purpose of this paper is to argue that the two causatives with *have*, that is, ‘have+object+bare infinitive’ as in (1a) and ‘have+object+past participle’ as in (2a), are represented on the semantic level as in (1b) and (2b), respectively:

- (1) a. John had Bill wash the car.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN]_i, [_{Event} GO([_{Event} BILL WASH THE CAR], [_{Path} TO([_{Thing} JOHN]_i))])))]
- (2) a. John had the car washed.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN]_i, [_{Event} GO([_{Event} THE CAR BE WASHED], [_{Path} TO([_{Thing} JOHN]_i))])))]

Aside from the kind of event involved in the complement, these two structures are isomorphic in that the subject NP plays not only the role of ‘Causer’ but that of the Goal to which the event of the complement moves. Compare these structures with those of *cause* and *make*, which were proposed in Inoue(1989), as in (3) and (4):

- (3) a. John caused Bill to work.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN], [_{Event} GO([_{Thing} BILL]_i, [_{Path} TO([_{Event} BILL_i WORK])))))]
- (4) a. John made Bill work.
 b. [_{Event} CAUSE([_{Thing} JOHN], [_{Event} BILL WORK])]

(3b) differs from (1b) and (2b) in that in the former ‘Bill’ is the Theme and the Event [BILL WORK] the Goal, while the opposite is the case in the latter; (4b) differs from (1b) and (2b) in that there is no thematic relation in the former.

Section 1 is devoted to a brief survey of the framework upon which the present analysis is based. Section 2 is concerned with how to

distinguish *have*-constructions on semantic grounds. By using various types of test such as 'what happened was ...', 'what x did ...' and 'what happened to x ...', distinctions are made between statal *have*-constructions, the so-called "*have*-passive" and *have*-causatives. Section 3 presents evidence that argues for the structures (1b) and (2b). The main focus is placed on the issue of the subject NP as Goal by comparing *have* with *make* in respect of semantic behavior.

It follows from the discussion that if the present analysis is valid, it will enable us to account for (i) why the past participle is more likely to occur in the complement of *have* than that of *make*, and (ii) the striking parallelism that holds between *have*-causatives and other *have*-constructions.